

J-SOX法の簡単解説ガイド +テンプレート付



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

J-SOX法の簡単解説ガイド+テンプレート付

J-SOX法（内部統制報告制度）の概要

J-SOX法とは、上場企業に対して「財務報告の信頼性」を確保するための体制（内部統制）構築を求める制度です。正式には金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」と呼ばれます。

アメリカで不正会計事件を機に制定されたSOX法（サーベンス・オクスリー法）の日本版として導入されました。

J-SOX法の目的

企業の粉飾決算や不正会計を防ぎ、財務報告の信頼性を高めること、そしてそれによって投資家の利益を守ることが主な目的です。

J-SOX法の対象企業

金融商品取引所に上場しているすべての企業が対象です。本社だけでなく、その子会社や関連会社も対象に含まれます。

J-SOX法の簡単解説ガイド+テンプレート付

J-SOX法への対応ステップ

1. 評価範囲を決定する

まず、企業の財務報告全体に重要な影響を及ぼすリスクに着目し、そこから評価対象とすべき業務プロセスを絞り込みます（トップダウン型リスクアプローチ）。

2. 業務プロセスを文書化する

評価対象となった業務プロセスについて、「3点セット」と呼ばれる書類（後述）を用いて業務の流れやリスク、統制内容を文書化し、可視化します。

3. 内部統制を評価・是正する

文書化した内容に基づき、自社の内部統制が有効に機能しているかを評価します。もし不備（問題点）が発見された場合は、それを是正します。

4. 内部統制報告書を作成・提出する

最終的に、経営者が行った評価の結果を「内部統制報告書」として取りまとめ、提出します。

J-SOX法の簡単解説ガイド+テンプレート付

J-SOX対応の鍵「3点セット」

J-SOX対応の実務において、業務プロセスを文書化（可視化）するために「3点セット」と呼ばれる以下の書類が作成されます。

1. フローチャート（業務の流れ図）

業務の具体的なプロセスや担当部署、情報の流れを図で示したもの。

2. 業務記述書

業務の手順、担当者、内容などを文章で詳細に説明・補足するもの。

3. リスクコントロールマトリックス (RCM)

RCM（リスクコントロールマトリックス）は、業務プロセスに潜むリスクと、そのリスクを低減・防止するための対策（コントロール）を一覧表で管理するものです。

J-SOX法の簡単解説ガイド+テンプレート付

【テンプレート例】リスクコントロールマトリックス(RCM)

業務プロセス	(業務プロセスに潜む) リスク	(リスクへの) コントロール (対策)
(例：売上計上)	(例：架空の売上が計上される)	(例：承認された注文書と納品書を照合する)
(業務内容を記述)	(想定されるリスクを記述)	(リスクへの対応策を記述)
(業務内容を記述)	(想定されるリスクを記述)	(リスクへの対応策を記述)
(業務内容を記述)	(想定されるリスクを記述)	(リスクへの対応策を記述)

※これは簡易的な構成例です。実際の作成時は、必要に応じてより詳細な項目（担当部署、統制の頻度、評価など）を設定します。